

## 宍道湖・中海及び美保湾産魚類の食性調査報告

越川敏樹（ホシザキグリーン財団環境修復プロジェクト）

汽水は、淡水と海水の間にある幅広い塩分の環境をさす。宍道湖・中海に棲息する魚には、海域から汽水域に進入してくるものが多い。その中で、広範囲の塩分環境を行き来している魚類に、スズキ、ボラ、コノシロ、サヨリなどがある。これらの魚類は、冬季以外は、宍道湖、中海、美保湾と広範な水域において普通に見られるタイプである。

川那部（1969）は、汽水に棲む魚は、その水域で、その時期に多くあって、食べやすいものを幅広く食べている、ことを述べている。先に挙げたタイプの魚類は、幅広い食性を前提にそれぞれの水域に暮らしている。よって、彼らの食性から、その水域の環境の一端を探ることができるものと考えた。

今回は、スズキを中心に食性を調べた。ルアー釣りの印象が強いため、典型的な魚食性と捉えられがちであるが、実際は、魚類よりも、アミ類やエビ類またゴカイなどの多毛類を多く食べていた。

今年5月から9月にかけて、宍道湖では、総体的にはアミ類を多く食べていた。しかしアミ類が、激減した夏場には、それに代わる様々な生き物が餌として利用されている。

一方で、この期間には、もともとアミ類の少なかった中海においては、当初から、多種類の餌をとっていた。また、美保湾では、アミ類を含め、魚類、甲殻類、多毛類など比較的バランスよく食べていた。

今回は、スズキを中心にした途中経過報告の観が強いが、今後、スズキの周辺に暮らす魚類を含めた長期的な食性調査によって、汽水の環境と生態系をより深く探ることができるものと思われる。



刺網（中海）



アミ類（宍道湖）